

スマートフォン、使うときは周りを気づかって

6年3組 岩木、桜井、高橋、矢島

1. 提案のきっかけ

(1) 私たちの体験と、調べて分かったこと

外を歩いているときに、向こうから来る人がスマートフォンの画面を見ていて、ぶつかりそうになったことはないだろうか。私たちのグループでは、みんながこの経験をしていた。インターネットで調べてみると、鉄道会社やけいたい電話会社が、「歩きスマホ」をしないように呼びかけていることが分かった。「歩きスマホ」とは、歩きながらスマートフォンをそうさすることだ。東京消防庁のウェブサイトによると、平成28年から令和2年までの5年間で、歩きスマホなどによる事故で、196人が救急車で運ばれている。

また、静かな図書館で着信音が鳴って、いやな気持ちになったことがある人もいた。

(2) 解決したい課題

スマートフォンを使うときに気配りをわすれると、周りの人にめいわくをかけたか、時には、自分や周りの人がけがをしてしまったりすることがある。私たち小学生にも、スマートフォンを持つ人が多くなっているため、この課題を解決する方法を提案したい。

2. 提案

「使う場所」に合わせた使い方をしよう

どこにでも持ち運べて便利なスマートフォンだからこそ、自分の都合ではなく「使う場所」に合わせるという意識をもつことを、私たちは提案する。なぜなら、スマートフォンのそうさに集中していると、周囲に注意が向かなくなり、めいわくをかけるおそれがあるからだ。具体的には、次の二つを提案する。

- (1) 「歩きスマホ」はしない。外でスマートフォンを使う必要があるときは、ベンチなどにすわったり、安全な場所で立ち止まったりしてそうさする。
- (2) 公共の場所では、音が出ないようにする。電車やバス、図書館など、みんなが利用する場所では、マナーモードに設定するなどし、電話がかかってきたら、別の場所に移動して話すなど、周りに気を配る。

このように、「使う場所」に合わせた使い方をすることで、周囲にめいわくをかけることなく、みんなが気持ちよく過ごすことができるのだ。一人一人の心がけから、マナーを守る人の輪が広がることも期待できるだろう。マナーを守る人の輪が広がれば、思いがけないトラブルや事故などを減らすことにもつながると考える。

3. まとめ

スマートフォンはとても便利で、いろいろな機能がある。そのため、使っていると、つい夢中になってしまいがちだ。しかし、そんなときは一度立ち止まって、使う場所に合わせた使い方をしよう。私たちの中でも、スマートフォンを持っている人は、「最初のうちは使うのが楽しくて、持ち歩いていると、いつでもどこでも使いたくなったよ。」と話す。しかし、自分の楽しさや都合を優先して、周りの人たちへの気配りをわすれてはならないと思う。いつでもどこでも使える便利なものだからこそ、マナーを守ったスマートフォンの使い方を心がけよう。